

(経緯説明)

令和3年8月3日に新型コロナウイルス感染防止を図るため「令和3年度 第1回 文化財保護委員会」は、書面開催とし協議事項の質疑応答を行い、委員長の承認を得た上で、各委員にまとめたものを確認して頂き、公開する事とします。

(公開の方法)

1. 事務局説明者氏名削除、質問委員名ABCDとし、特定されないようにする。

令和3年 第1回恵庭市文化財保護委員会 資料に対する 各委員からの質問・意見及び事務局よりの回答

(本来の恵庭市文化財保護委員会予定内容)

開催年月日： 令和3年8月3日(書面開催)

出席者： 山田委員、高橋委員、岩淵委員、久瀧委員、伊藤委員、土屋委員
布施委員

(事務局) 岩渕教育長、竹内教育部長、大嶋教育部次長、高畑郷土資料館長
大林資料館担当主査、長町史跡・埋文発掘担当主査
太田埋文事務・総務担当主査

1. 議 題

(1) 令和3年度 恵庭市文化財保護委員会、委員長・副委員長の選任について

委員長に山田悟郎委員、副委員長には高橋美智子委員を選任

(2) 令和3年度 主な事業計画について

A委員 カリンバ講演会・講座以外の講演会・講座は検討しないのか。また、具体的な内容の計画がなぜできていないのか

事務局 現在のところ検討しておりません。カリンバ講演会は委員会資料を送付した時点では講演内容を検討中でしたが、予定どおり11月14日に宮塚文化財研究所の宮塚義人氏を講師として講演会を開催することとしました。演題は調整中ですが、『気候変動から見た5世紀から10世紀の恵庭』といった内容のご講演をいただく予定です。

カリンバ土曜講座ですが、2回目は8月28日に、3回目は10月2日に延期しました。ですが、緊急事態宣言に伴う休館で、2回目は再延期となりました。2回目は宣言解除後に日程調整の上、開催の予定です。

A委員 新市史発行にあたって、各種資料が集まっているようなので、担当部局と市史刊行後の資料も集め検討をしてみたいのか

事務局 昭和54年発行の『恵庭市史』編さん資料を郷土資料館に移管して保存しておりますので、新市史についても編さんを担当している広報課と調整の上、可能な限り収集に努めたいと考えております。

A委員 カリンバ遺跡の史跡整備にかかる内部検討は進んでいるのか。

事務局	8月10日に文化庁の保存科学の専門家に来ていただき、アドバイスをいただきました。水文環境調査については水位の減少が今後すぐに史跡の保存に問題となる可能性は少ないことから、資料館職員によるデータ採取を続け、異常があった際に業者による分析を検討することで良いだろうとのことでした。また、低地面は低湿地へのアプローチを整備した上で、樹木の枝払い、支障木や危険木の伐採、運び出し、一部下草を刈り、市道から旧カリンバ川を見えるようにするのが良いとアドバイスをいただきました。市としては令和4年度から国庫補助を利用して低地面の整備を行う計画です。 郷土資料館とガイダンス施設の複合施設については、民間活用による事業手法、実施時期を検討している最中です。10月26日には文化庁の史跡整備部門の中井調査官をお招きし、上記について指導いただく予定です。
B委員	事業案「資料収集」についてお尋ねします。 「自然資料収集」とありますが、最近、収集された自然資料とはどのようなものでしょうか。
事務局	昨年5月に市民より寄贈を受けたエゾシカの角が最も新しい受入資料となります。なお、現在、本年6月に収容されたアオバト(メス)の遺体を冷凍保管中です。野生鳥獣の遺体は剥製加工完了時に資料受入登録を行うこととしておりますため、令和4年度中に予算を確保の上、剥製加工を行い、正式に資料として登録する予定です。
C委員	新型コロナ禍の中での各事業計画立案、ご苦労さまです。 事業計画の中には中止のものもありますが、感染対策を講じて実施に至るものあり、資料館活動継続への皆さんの努力を心強く思っています。 特に、教育普及事業の「ふるさと教育宅配事業」の再開と実施は、良かったと思います。 行動が抑制されることの多い中、児童等が実物の郷土資料を間近で見ることは得難い機会となるでしょう。 当面は関係者等と様々な感染予防対策等が不可欠でしょうが、児童等の「ふるさと教育」の一端を担う事業として、今後も継続していただきたいと思います。
事務局	この事業は、学校長はじめふるさと教育担当者等教職員の皆様のご理解・ご協力の元、再開することができました。今後も担当教員としっかり調整を行い、無理のない計画で継続していきたいと考えております。
D委員	「ふるさと散歩ガイドブック」の作成について、期待しています。
事務局	現在、館内で閲覧資料として設置している石碑ファイル、来館者用パソコンで公開している石碑マップ、ホームページ上の恵庭の石碑と3通りの公開をしておりますが、これを集約して手軽に持ち歩けるハンドブックとして活用していただけるものを想定し、年度末に発行する予定です。